

# わかくさ

社会福祉法人 栄光会

・児童養護施設 若草園

IP電話 050-3344-8850

Tel (0880) 33-0247

Fax (0880) 33-0518

・児童家庭支援センター わかくさ Tel (0880) 33-0258

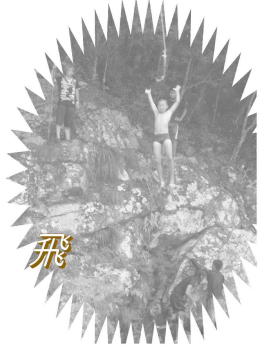
〒787-0155 高知県四万十市下田2211

編集員：片山幸一、横山貴実子、瀬戸雅弘



## 8.3 伊才原ヘデイキャンプ

...いっぱい泳いで、  
...竹で器を作って、  
...流しそうめんをしました。



## 子どもたちのグループホーム

園長 沓野一誠

若草園のグループホームには古い歴史があります。先代の青木園長が現在の幡多信用金庫下田支店の隣の民家を借り受け、昭和58年にコミニティグループホームとして開設しました(のちに「アドラムの家」、移転して現「平野ホーム」)。これは当時の国内の児童養護施設においてはとても先進的な試みでした。当時の児童養護施設は一つの大きな建物に大勢の子ども達が集団生活を送る、いわば寄宿舎のような施設が大半でした。日課がきちんと決められ、朝の起床から夜の就寝まで流れ作業のように毎日が過ぎていく生活です。いわば学校の延長のような生活です。

グループホームは約6名の子どもたちが特定の職員と共に、普通の家庭に近い暮らしを実現します。少人数の集団なのできちんとした日課は必要がありません。生活にゆとりと自由が生まれます。子どもと職員との距離も縮まります。子ども達一人ひとりと向き合う時間が確保できます。グループホームは現状の児童養護施設で考えられる最良の養育の場であると考えます。但しこれを維持するためには職員の多大な努力と献身が必要です。また経費もかかります。

最近厚生労働省もグループホームの良さに気づき始めています。「ケア単位の小規模化」という表現を同省は使っていますが、若草園は30年以上前から取り組んできたことです。現在若草園は「具同ホーム」と「平野ホーム」というグループホーム2カ所を運営しています。子どもたちをできるだけ家庭に近い環境で養育していくために、これからもグループホームを増やしていきたいと思っています。

11月は児童虐待防止推進月間です。オレンジリボンには子ども虐待を防止するためのメッセージが込められています。





ボーイスカウト  
高知県連盟中村第1団  
は若草園で組織する団  
体です。



# ボーイスカウト 活動



ガードレール清掃と分担したので、今年度の清掃範囲は少なめでした。それでもゴミは6袋もありました。

## 9.23 カントリー作戦

今年度のスカウトの日 (9.20) にちなんで近隣の缶取り (カントリー) とガードレール清掃を行いました。スカウトのおきて「8 お礼の心で、自然をいつくしみに、社会に奉仕します」をモットーに、自己鍛錬だけではなく、地域活動にも尽くしています。



水も道具も持ち込んで

若草園の周辺には公園がたくさんあります。



→協力しながら…



7.24 下田こども夏祭り  
今年で8回目。保・小・中・若合同で行っています。夜店とカラオケ、子どもの出し物、盆踊り、打ち上げ花火で縁日気分をあげました。

# 子どもたちの 活動



6.28 乳児の入所  
ベビールーム開設以来、はじめて0歳児がやってきました (一時的にはありました)。

## 7.31 なかむら市民祭

一條太鼓チームに加わって、♪新々なかむら音頭 に合わせて「なかむら踊り」をしました。



→運動場の後ろの建物  
が若草園です。



9.19 下田中学校運動会  
お昼休みには子どもたちは、職員が早起きして作った重箱弁当を囲んで昼食をとります。

6.27 高知かるた会出場  
百人一首のかるた大会です。競技人口が少なくなり、若草園からの参戦は貴重です。



9.13 ふだんの夕方  
幼児と今年最後の花火を楽しみました。この後、自分で持てるようになった子もいました。



ふだんの日の夜 子どもの誕生会



ミニバス対抗試合

## 作文 コーナー

運動会で心に残ったこと

小6女子 I・S



9.26 下田小学校運動会

二十六日運動会がありました。私は、マス  
トがのぼれるか心配でした。私は、マス  
運動会本番まで  
「のぼれるるか。」  
「のぼれんかったらどうしよう。」  
とか言っていました。今までたくさん練習し  
てきたけど、一番上まで登れたことはありません  
でした。放か後に練習をして、やっとみ  
どりの線まで登れるようになりました。もう  
少しと思ってもなかなか登れませんでした。もう  
いつもいつも同じ所ぐらいからとまって下に  
おりてきていました。そして、マスの周り  
を五回りしました。  
マスの練習がいやでにげた時もありまし  
た。だけど、運動会が終わって、大人の男の  
人たちがマスを抜いている姿を見て、もう  
マストがなくなるのか、いっぱいやっておけ  
ばよかった。いやなものなくなる時、こん  
なにつらいことが分かりました。  
またいつか、マストを上手に上るまで  
登りたいです。マストが一番心に残りました。

## 地域の活動と共に

「施設の子ども」という特殊性をいかに一般家庭の養育環境の様に近づけていくか。大舎制から小舎制に移行して、器は変わったが中身が同じならば由無。各ホームを1つの擬似家庭として運営を志す小舎制は、子どもの日常生活がかつての園主催行事中心から、各家庭や地域行事へと移行していく必要がある。それを後押しするように、昨年度から県の措置費でも学習塾等の月謝支出が認められるようになった。すでに若草園でも高校受験を控えていた子どもが地域の繋がりの中で、新しい予算枠を利用して塾通いさせていた。文化・体育活動においても同様。かつては高知で開催された養護施設どうしでの芸能祭、スポーツ大会に参加していたが、遠路移動する子どもと職員の負担、日常まったく関わりのない人々との交流活動よりも、近隣でふだん学校で接する子どもも交えての活動に移行してきた。

土佐中村一條太鼓振興会には、10数年前、芸能祭への出し物の練習する事を目的として太鼓演奏活動に加わらせていただいた。芸能祭が終わった後、自主的に習い事として「太鼓を叩きたい」と希望する子どもがあり、それから現在も数名が毎週火曜日、夜の練習に参加している。年に10回程度もたれる各地での演奏活動にも楽しみ加わらせていただいている。

竹島クラブミニバスケットボールにも数年前から、希望する子どもが入部させていただいている。毎週月・水の夜と、土曜日の午前中、練習をして、県内、四国島内で大会、交流試合など、地域の児童と共に行動している。それに伴って保護者との関わりも築かれ、まさに一般家庭の養育環境に近付きつつあるとの実感がある。

この2つの団体によって、若草園の新たな歩み出しの一翼が支えられている事に、あらためて感謝申し上げます。

## 便利・ストレス・軽減

若草園事務職員 片山幸一



平成になり、なんといっても便利になったのはネットワークの発達であろう。今迄、読みたい本があると、書店に行き注文して貰っていた。今回も読みたくなった本があったので書店で注文して貰ったが、絶版になっていた。インターネットで買物をした事がまったくなく、注文の仕方を知らない私であるが、若草園で事務の仕事と一緒にしているもう一人の男性にインターネットでの注文の仕方を教えてもらい、絶版になっている本なのでネットショップのAmazonで古本を探し、思い切って注文してみた。

ネットワークを使えば、やり方さえ知っていれば次々にボタンを押していくだけで注文が出来てしまう。又、古本を探すのにもとても便利である。やり方を知らない、イライラしてストレスが溜まってしまふ。インターネットの世界でも出来る者と出来ない者の格差を実感する。

先日携帯で、ある銀行の残高を確認しようとしたが、以前登録していた確認用パスワード・ログインパスワードを忘れてしまい、銀行で再発行の手続きをする事になった。モバイルバンキングの操作もスムーズに出来ると、とても便利だが一つでも分らないと前に進なくなり、イライラとストレスが溜まってしまふ。同時に携帯の操作でも使いこなせる者とこなせない者との格差を感じる。便利・ストレス・格差の世の中である。





# § 若草園の虐待防止への取り組みについて §



↑ 児童相談所の新しいパンフレット

今年度も若草園の児童一人ひとりが児童相談所の職員と面談しました。困ったことがあったら直接、相談ができるように電話番号、キリトリ式の記入はがきが綴じこまれた冊子が手渡されました。

11月は厚生労働省・内閣府が主唱している「児童虐待防止推進月間」です。若草園でもこれに平行して虐待防止への意識を高めたいと考えています。

施設内の環境改善や虐待防止のために、園内には「苦情受け付けポスト」が設置されています。昨年度は投書がありましたが、今年度は現在までに寄せられてはおりません（下記の報告がそれです）。

今年度、いままでにも存在した、児童相談所へ直接相談窓口につながるパンフレットが新しく完成し、あらためて入所児童に説明・配布されました。

この相談は児童との秘密を守るという前提であるため、施設側に大きな問題があつて指導をされるという場合を除いては伝えられませんので、詳しい内容は把握できておりませんが、いくつかの相談は寄せられているとの事です。

子どもの安全・安心な養育環境を提供する児童養護施設 若草園が、あらゆる角度から見つめられて、お預かりした児童を公正に育成できるように、これからも学校や地域の皆様にも協力いただきながら、健全な運営をこころざしてまいります。

↓ 若草園にある苦情ポスト



## ～ 平成22年度 前期 ～ 苦 情 解 決 報 告

● よせられた件数： 0

(平成22年4月1日～9月30日の間はありませんでした)

### ～ 児家センだより ～

「児童家庭支援センターわかさ」の中心的な働きは相談を受けることです。昨年度 H21.4.1～翌3.31) 一年間で、電話相談 277 件、来所相談 136 件、訪問相談 192 件、心理療法等 8 件、のべ合計 613 件に対応しました。

今年度上期 H22.4.1～9.30) の半年で、電話相談 295 件、来所相談 66 件、訪問相談 76 件、心理療法等 9 件で、すでにのべ合計 446 件となりました。「のべ」とは同一の相手方が継続して相談した回数も累算しているという意味です。

このようにすでに地域に存在が知られたり、活動が広がりつつあることが伺えます。これからもよろしくお願います。

### § 編集後記 §

▽機関誌「わかさ」が現在の様式になって7年目15号を数える。その前の2年間前哨戦で4回、自宅パソコンで執筆から印刷まで担当していた片山氏の味のある投稿を今回いただいた。▽9年間を振り返って、また9号以降の編集に携わってきて、改めて機関誌としての位置づけ、意義を考え直してみた。児童養護施設をもっと地域に開かれた存在とするために、広報誌としての本誌の役割を拡大していきたいとの願いが起こされた。▽新年度からは「より読みやすく親しみやすい」を目指して、発行頻度を増やして大幅に紙面構成を見直します。巻頭言も主に園長が執筆しておりましたが、記念すべき第1号が奇しくも現支える会々長の山崎氏の投稿であったように、あらゆる方面から募集して、幅広く「若草園」を語って頂きたいと考えております。▽今後、皆さまの元にもお願いに上がる事もあるかも知れません。何とぞよろしくお願い申し上げます。ご意見やご感想もどうぞお寄せください。(せと)

### お知らせ

若草園にもIP電話が開通しました。NTT系列のIP電話同士だと無料通話ができます。電話番号は(050)3344-8850です。